

遊びにはいろいろな  
願いが込められていますよ

### 屋内の遊び

#### お手玉

お手玉の歴史は古く、紀元前5世紀には遊ばれていたという説があります。その当時は羊の足の骨を使って遊んでいました。日本には奈良時代に伝わり、身近にあった「石」が使われるようになりました。今のような布のお手玉が登場するのは江戸時代後半からで、大豆やじゅず玉などを入れていました。主食のコメを入れる俵をかたどった俵型のお手玉は、豊作を願って作られたのかも知れません。

#### 福笑い

明治時代にはお正月の遊びとして盛んに行なわれたそうです。伝統的な「おかめ」「おたふく」といわれるお福面の顔だけでなく、アニメの主人公や家族の顔などを使って自由なことが出来る遊びです。「笑う門には福来る」ということわざにあるように、正月に笑うことでこの1年を笑顔で過ごせる福を呼び込みたいという願いが込められています。

#### かたがた

お正月のかるたと聞くと、小倉百人一首の歌があるのを思い出す人が多いかも知れません。平安時代に行われた貝合かいあわせが起源といわれ、江戸時代初期に一般に広まりました。

「犬も歩けば棒に当たる」の犬棒カルタが有名な「いろはかるた」は江戸時代後期に始まったといわれています。子どもが楽しく文字やことわざを覚えらるるよう考えられたのではないのでしょうか。



©ほろいわのりみゆ



#### ◆お手玉を作ってみよう

ここでは俵型のお手玉を紹介するよ



じーも



用意するもの(1個分)

- 長方形の布 (10cm×16cm程度)
- 針、糸
- アズキ40g

①内側が表地になるように布を縦長に半分に折り、長辺の端を縫います。

②短辺の端を縫った後、糸を締めて布をきゅっと縫い縮めます。

③縫い目に注意しながら内と外を裏返し、アズキをその中に(8分目くらい)入れます。

④最後に反対側の端を縫った後、糸を締めて布を縮めます。



「北九州市ふるさとかるた」を知っていますか



わかっぱ

「北九州市ふるさとかるた」には、北九州自慢がいっぱいです。市内の名所・旧跡や食をテーマとした絵札と市民公募による読み句で、子どもから年長者までが、遊び楽しみながら、本市の魅力や歴史、文化を再発見できます。未来を担う子どもたちに、故郷に対する愛着や誇りを持ってもらうこと、この「北九州市ふるさとかるた」を使った小学生かるた大会(主催:北九州市にぎわいづくり懇話会)が毎年開催されています。



#### ●読み句例

- 【ち】 提灯で 五色に焦がす 戸畑の夜
- 【ふ】 古き佳き 時代とどめて 門司港駅
- 【り】 凜とたつ 東田高炉 技の街
- 【わ】 若戸大橋 洞海湾を ひとまたぎ

「北九州市ふるさとかるた」ノートを3人に進呈します。

提供:北九州市にぎわいづくり懇話会

#### 【応募方法】

はがきに、住所、氏名、年齢、電話番号、「ふるさとかるた希望」と書いて1月5日(金)までに〒803-8501 広報室 広報課へ。



※遊びの由来には諸説があります。

【参考文献】・藍尚禮 他(1984)『日本大百科全書』小学館

・相賀徹夫編(1978)『大日本百科事典』小学館

・大西伝一郎(1997)『お手玉』日本お手玉の会監修、文溪堂

・下中邦彦編(1977)『国民百科事典』平凡社

・多田敏捷編(1992)『おもちゃ博物館』京都書院